

令和6年度 新居浜市立図書館協議会 会議録

- 1 日 時：令和7年2月21日（金）15時30分から16時20分
- 2 場 所：新居浜市立別子銅山記念図書館 多目的ホール
- 3 出席委員：西原委員、野村委員、明星委員、土岐委員、鴉委員、村上委員、岡田委員
高橋委員
- 4 欠席委員：脇委員、永井委員、坂本委員、吉村委員
- 5 事務局：近藤館長、久葉副館長、川上副館長
- 6 傍聴者：0名

7 会議概要

《次第1 開会》

《次第2 会長副会長選出》

会長に明星委員、副会長に鴉委員を選出

（明星委員） [あいさつ]

委員の方には、それぞれの立場やご経験から様々な意見をいただき、図書館運営のための意義のある会にしたいと思う。

《次第3 令和6年度事業報告について》

令和6年度事業報告について

（久葉副館長） 行事等、施工工事について 別紙資料により説明

（川上副館長） 図書館オンラインサービスについてのプチモニアンケート結果について 別紙資料により説明

質疑応答

（岡田委員） 夏休み行事の感想文講座や図書館探検は、現在中学生の子どもが小学生の時に参加してもよかった。ただ、平日開催は図書館や講師の都合もあるが、平日と休日の2回実施するとかすれば参加者が増えるのではと思う。キッズマネーセミナーも金銭教育や名刺交換など子どもたちのよい経験になったと思う。おみくじは読まないジャンルの本を読むきっかけになる。

雨の季節などの季節ごとでこのような企画があればいいと思う。

また市民の方が自分の面白かった本をおすすめするようなポストなどがあれば面白い。

（久葉副館長）

行事開催の曜日などは、今後検討したい。一般の人が本をおすすめするコーナーなどもよい。

改善につながる意見ありがたく思う。

《次第4 図書館運営について》

- (1) 令和7年度の事業実施について

(久葉副館長) 別紙資料により説明

(2) 図書館施設整備事業について

(久葉副館長) 別紙資料により説明

質疑応答

(土岐委員) 「学び舎来ぶらり」について、現地集合のものもあるが、書籍を使用するものもあるのか。書籍はなく現地を見るだけのものなのか、本とリンクさせたりするようなものか教えて欲しい。

(久葉副館長) 来年度5回予定しているが、うち2回は現地集合の現地説明、あと3回は従来通りの図書館での座学である。別子銅山関係の文献を読むといった趣向を少し離れて講師の用意した資料によって講座を進めていく形になる。

(会長) その他は？

(久葉副館長) 本日欠席の坂本委員から、意見をいただいているので紹介する。「多目的ホールのロールスクリーン修理はお話会などで利用する時不便だったので、助かる」とのこと。

(会長) 情報交換も兼ねてご意見いかがか？

(西原委員) 中学校の図書館担当だが、小学校では学校司書の活躍があり読書活動が活発だが、中学校だと、図書館に行く時間もなく、教員も手が届かないのが現実。小学校の読む力を継続させたいが活かせていないのが残念。「本のおみくじ」の情報を新居浜市の公式ラインで知ったが、このような情報を中学生とも共有できるように連携できたらいいと感じた。

(野村委員) 小学校だが、児童たちは積極的に図書館利用していて、青い鳥号も利用している。課題としては、図鑑や漫画的なものの好きなものに偏りがちな点、タブレット導入により本に触れる機会が減っている傾向がある点だ。図書館でのイベントも、夏休みであっても保護者の仕事で参加できない家庭は多い気がする。また、児童同士のおすすめ本は、教員がすすめるよりも効果があるようだ。教員がうまく引っ張っていけたらと思う。

(土岐委員) 「学び舎来ぶらり」など図書館にて学習できるという活動はすばらしいと思うし、新居浜ならではの別子銅山や太鼓祭りなどの知識を地域の人に知ってもらうことは意義があり、ありがたいと思う。

(村上委員) 保健センターとしての感想になるが、5か月健康相談にて図書館から絵本をプレゼントしているが、保護者に好評で小さい頃から絵本に触れ合うことはとてもいいことだと思っている。

(岡田委員) 中学3年の娘は、読書離れの年代だ。しかしテレビで紹介されていたヨシタケさんの絵本を並べておくと、疲れているときに読んでいるようだ。スマホも見たくないときには絵本を読むというのもありかと思う。

(高橋委員) 前職の時に図書館で始めたマナーセミナーを岡田委員に褒めていただき、やりがいを感じた。図書館は本を貸し出す目的だけではないことがよくわかった。図書館協議会の委員に任命されてから、若い世代に読書について聞いたら、「活字離れと言われるが、親から本の魅力を教えられ、成長と共に好きなジャンルが絞られてきているが、読んでいます」と語った。

次の世代に本の持つ魅力や想像力をちゃんと教えられたら、一時的に忙しきで本から離れても再び本に戻れるという期待を感じた。

(会長) 船木小学校では、人権同和教育の参観があり、松山の武知悦子さんに「普通って何だろう？」というテーマで読み遊びでお話ししていただき、子どもたちは盛り上がった。子どもたちは

シーンとした状態で本を読んでいたりと、非常に本が大好きだ。それでは何が足りないのかというと、図書館などに足を運ぶ機会と時間ではないかと考えている。タブレットも数年前から導入されて教育もデジタルの方に振られてきているが、やはり紙の匂いとかめくる音とか百科事典の重さを紙媒体の良さとして、学校図書館で伝えていきたい。

昨夏、このホールで愛媛県の学校図書館委員会の研修会を行った。県内から集まった参加者は、この図書館の環境が「都会の避暑地のホールみたいで、この中で子どもたちは読書できるのですね」と驚かれていた。

来年度の11月には四国の学校図書館研究会が伊予市で行われる。小学校から高校まで連続して発達にあわせた本を、つなげていき生涯に渡って本の良さを知ることができることに尽力できたらと考えている。また全国図書館大会が愛媛県で行われるが、私は学校図書館部門で担当する。

微力ながら子どもたちのために尽くしていきたいと考えている。

(事務局) 学校関係の方、子どもたちの読書について尽力してくださっているのをありがたいと感じている。電子図書館では、「児童書の読み放題パック」も用意している。活用していただければと思う。

(会長) 副会長から閉会の挨拶をしていただく。

(副会長) 私はリタイアしてから生涯学習の読書会のお世話をしている。現役で働いている頃は時間がなく、まだ自分の子どもが保育園小学校の頃はまだ図書館を利用していたが、中高校になると足が向かなくなっていた。読書会に関わるようになってからは図書館へ来た時、若い子どもさんが嬉しそうに絵本をたくさん抱えている様子を見る。中学・高校生は勉強をしているのを見るが、中学生は少ない感じがする。高橋委員がおっしゃるように、幼児教育や学校教育を通して本に触れ合った経験があると必ず本に戻って来る、いろいろな意味での種まきは、必ず実を結ぶと思う。

私も図書館に来るたびにロビー展を見たりして触発されるし、私の担当している読書会では古典文学だが、高齢の方もいらっちゃって、知らなかったことの学びの喜びを得ることが生涯通じて行われるのが種まき活動になると思う。実を結ぶには長い時間がかかることが多いかと思うが、このような機会を通じて意見を出し合いながら図書館が発展していくといいなと思う。

(会長) 閉会